

校長雑感

(Vol. 10/R5.9.29)

＝宮崎県高等学校総合文化祭＝

4年に1回、ラグビーファンになる私です（4年前に、ジャッカルとノットリリースザボールを覚え、今日、ノットロールアウェイとコラプシングを覚えました。確実に真のラグビーファンに近づいています）。さて、もうすぐ10月になるのに、相変わらず厳しい暑さが続いています。そんな中、昨日、本校の高等部3年生が宮崎県高等学校総合文化祭の合唱の部に参加しました。

都城市の総合文化ホールであったのですが、大きなホールで観客も高校生や保護者、一般の方々などかなり多く入っていました。こんな大きなホールで歌うことは、なかなかないことでしょうから、生徒たちは、きっと緊張していたと思いますが、本校の順番が近づくにつれて、「生徒たちは大丈夫かな」「いつもどおり歌えるかな」と私の心臓もドキドキでした。

ホール内に「次はみなみのかぜ支援学校の発表です。」とのアナウンスが流れました。生徒たちが舞台袖からステージに出てきました。まず、生徒代表4名が本校の紹介をしてくれました。4人ともゆっくりと、はきはきとした声で発表してくれました。手話ができる生徒もいて、学校紹介の発表と合唱曲の歌詞に手話をつけてくれました。

合唱曲は「美しい鰐」と「ほらね」という曲でしたが、全員、堂々としていて、しっかりと客席を見て、明るくきれいな声で歌うことができました。ピアノ伴奏をしていたのは本校の音楽科の教諭だったのですが、途中で涙が出そうになったと言っていました。私も、同じような気持ちでした。小学部、中学部、高等部と成長を重ねてきた生徒たちの集大成を見ているようで、大変うれしく感動的なステージでした。

生徒たちは、あと半年したら卒業です。卒業後の生活に向けて、まだまだやらなくてはならないことがあります。この生徒たちならきっと大丈夫、そう思わせてくれる素敵なお時間でした。